

知的資本  
の強み

超精密機械加工技術を核に、  
社内連携・M&Aによる「相合」で  
新たな価値創出

ミネベアミツミは超精密機械加工技術を核に、製造・技術・開発・営業が力を相い合わせて「相合」し、一体となってシナジーの最大化に取り組んでいます。さらにM&Aをスピーディな成長の原動力とし、PMI (Post Merger Integration) を通して早期のシナジー効果を発揮しています。このような知的資本の強みをいかし、新しい価値を生み出し続けています。

強み1 磨かれ続ける超精密機械加工技術



ミネベアミツミは超精密機械加工技術を 70 年近くにわたり自社内で磨き上げ、月産3億7,000万個の生産を目指すまでにいたりました。ナノメートルオーダーの加工寸法を自在に制御し、加工精度を常に品質維持できるように加工用刃物、治工具、生産設備から環境面への配慮にいたるまで、先端加工技術開発を自社内で完結しています。

また、顧客や市場ニーズに応えるため、使用原材料の開発も社内ですぐに、将来製品に必要な新規材料の基礎開発もおこない、部品メーカーとして類をみないものづくり体制を確立しています。これまで培ってきた超精密機械加工技術の経験と実績データは膨大なビッグデータとして社内の機械加工製品、ならびに他の製品へ横展開されています。

またミネベアミツミでは、当社製品によるCO<sub>2</sub>排出量削減にも貢献しており、そのための取り組みの一つとして、高精度ベアリングの開発にも注力しています。ミネベアミツミの超精密機械加工技術をさらに磨いてベアリングの精度を高めることで、摩擦を低減し、省エネ効率を向上させています。例えば、IT関連電子機器の冷却用に広く使用されるファンモーターにおいて、当社製ミニチュアボールベアリングを採用すると、従来比約149.6万トンのCO<sub>2</sub>排出量削減に貢献します。 | 製品によるCO<sub>2</sub>排出削減貢献量算定の取り組み P.59

こうした社会的課題解決への貢献に向け、今後も超精密機械加工技術を深化させ、お客様へ提供する製品、「相合」による自社製品のCO<sub>2</sub>排出量削減・消費エネルギー低減の効果を拡大していきます。

強み2 製造・技術・開発・営業の「相合」力

ミネベアミツミでは、製造・技術・開発・営業の緊密な連携と、研究開発投資の拡大を積極的に継続することで、新製品開発と、新たな社会的課題を解決する新市場を開拓しています。

さらに、2051年に迎える100周年という節目を見据え、「相合」力強化に向けた東京本部移転(2023年3月期 予定)の意義を確固たるものとするべく、技術者の新たな開発拠点として、2022年2月に大阪研究開発センター(ORDC)、5月に軽井沢本社テクノロジーセンターを新設しました。なお、大阪においては、本研究開発センターの新設と同時にミネベアミツミ大阪を設立し、ミネベアミツミ、ユーシン、ユーシン・ショウウ、エイブリックの各営業拠点も同拠点に集約いたしました。

ミネベアミツミが持つ「知」を「相合」させるとともに、当社が有する要素技術を進化させることに常に挑戦し、世界でも類をみない幅広いコア技術とコア事業の「相合」による常識を超えた「違い」で、今後も社会になくはない部品と新しい価値を生み出していきます。



軽井沢本社テクノロジーセンター 大阪研究開発センター (ORDC)

強み3 M&A 遂行力・PMI の維持・向上

ミネベアミツミは、2022年8月現在、累計54件、特に2009年4月以降は23件というスピードでM&Aを実施、事業ポートフォリオの強化と見直しをおこなってきました。

なかでもPMIに力を入れており、対等の精神を掲げることでグループに加わるメンバーのモチベーションを引き出し、早期にシナジー効果を生み出しています。

| エイブリック社長インタビュー P.53

知的資本  
の戦略

超精密機械加工技術とコア技術を相い合わせ、  
社会的課題解決に貢献する新製品開発を推進

コア事業のスピーディな成長を支えるため、製品の付加価値を高める基礎技術・要素技術の強化だけでなく、市場のニーズに基づいた新製品の開発により、競争力をさらに高めています。

また、「相合」により無限のシナジーを生み出し、社会的課題解決、および次世代のニーズに応える新製品の開発に注力します。

戦略1 コア技術の拡充と新製品投入を推進

ミネベアミツミの技術開発方針として、

- 中長期的に市場で勝てる新製品開発に必要な要素技術（コア技術）の拡充
- グループのシナジーを有効活用、相合活動の積極推進により新製品を創出を掲げ、以下の重点戦略に取り組んでいます。さらに、これらの従来の技術方針にくわえ、より一層社会的課題を意識して製品開発に取り組んでいきます。

- |                     |                     |
|---------------------|---------------------|
| 1. モーター事業拡大         | 5. IoTを見据えたコネクティビティ |
| 2. 光学開発製品群のパラダイムシフト | 6. 機械加工品付加価値向上      |
| 3. センサー事業の拡大        | 7. ユーシンコラボレーション     |
| 4. ロボティクス市場参入       | 8. エイブリックコラボレーション   |

■ 研究開発費の推移



新製品開発を進化させる新しい技術戦略

従来の当社の技術開発戦略では、幅広い製品群とそれらを支える強い要素技術による差別化、性能向上技術により、コア事業を、より太くより強くする方針をとってまいりました。しかし、当社の中期目標である、売上高 2.5 兆円 / 営業利益 2,500 億円を確実に達成するための取り組みとして、新たな技術・新製品の開発にむけたチャレンジを始めています。

具体的には、技術開発方針の最適化などによる、技術開発本部自らの変革です。従来、技術のシーズを中心に要素技術を磨き上げ、その改良・改善による製品化、量産化を進めて

まいりました。一方、昨今の技術革新や情勢の変化を鑑みると、より短期間で最大の成果を発揮する必要があります。

そこで、新製品開発を進化させ、広範囲に広がる市場からさまざまなニーズを掘り起こすため、シーズの強化だけでなく、市場のニーズから製品の開発を進める方針を近年積極的に取り入れています。また、産学連携の拡大等による外部機関との技術交流の促進、若手技術者による新製品の開発提案制度を強化することなどにより、前述の中期目標達成に不可欠な新製品の立ち上げと、オンリーワン製品の研究開発を、効率的かつ加速度的に進めています。

戦略2 事業の成長を支える知的財産のポートフォリオ形成

ミネベアミツミグループとして8,000件以上の特許権を保有し、その分布は下図のようになっています。ミネベアミツミ、ミツミ電機、ユーシン、エイブリックが補完し合い、コア事業を中心とする主要事業を効果的にカバーするポートフォリオを形成しています。

